

# ALB BiH NFFIS & NbS for DRR/Eco-DRR Newsletter

-アルバニア国 国家森林火災情報システム（NFFIS）と自然を基盤とした  
解決策を通じた災害リスク削減（NbS-DRR）実施能力向上プロジェクト  
-ボスニア・ヘルツェゴビナ国 国家森林火災情報システム（NFFIS）と  
Eco-DRRによる災害リスク削減のための能力強化プロジェクト

プロジェクト実施期間: 2024年6月～2029年6月

本プロジェクトの目的は、森林火災及びその他自然災害の防災・減災にかかる政府関係者の能力が  
NFFIS 及び生態系を活用した防災・減災（NbS for DRR/Eco-DRR）の導入を通じて強化されること  
です。

Vol3では、2025年1月-6月の活動を報告いたします。

## コソボ地域セミナー開催



2025年5月13日から15日にかけて、コソボのプリズレンにおいて、「Disaster Risk Reduction through the National Forest Fire Information System and Ecosystem/Nature-Based Solutions」と題する地域セミナーが開催されました。セミナーの主な目的は、コソボとモンテネグロで実施されたNFFIS（国家森林火災情報システム）開発およびEco-DRR活動に関するJICAプロジェクトの成果を発表することで、同時に、アルバニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、北マケドニアにおける自然災害の現状とプロジェクトの進捗状況も共有されました。セミナーには、各国代表者、カウンターパートのほか、JICA関係者、国際機関、メディア関係者など、合計77名が参加しました。

セミナーの一環として、参加者はコソボのレストリツェにあるプロジェクトサイトを訪問しました。ここでは、森林を活用した雪崩対策活動が実施されており、植林や雪崩リスク軽減のための三脚設置といった主要な対策について詳細な説明を受けました。最終日には、二国間協力と地域協力の今後の可能性について議論が交わされました。これらのプロジェクトは、2018年に日本政府が開始した「西バルカン協カイニシアティブ」に基づき、JICAが西バルカン諸国に対して実施する幅広い支援の一部であり、地域全体の防災能力強化を目指しています。

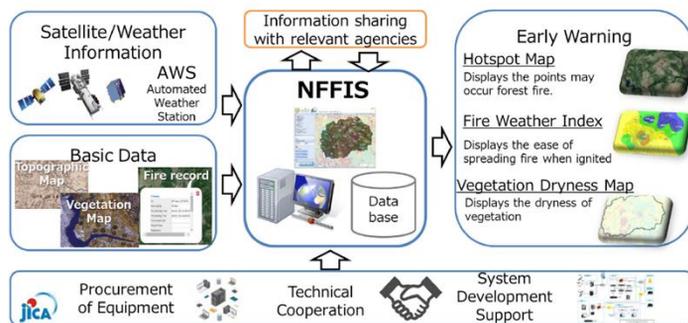


写真上:レストリツェ訪問の様子  
写真中: ALB & BiH プロジェクトメンバー  
写真下:グループディスカッション

## NFFISのコンセプトと機能 概ね決定！

国家森林火災情報システム（NFFIS）は、森林火災の予防と早期警戒のための統合Web-GISシステムであり、関係機関間の情報共有を促進します。

日本人専門家チームは、3月から6月の滞在中、カウンターパートと協議を行い、その結果、NFFISのコンセプトと機能が概ね決定しました。今後、さらなる協議を重ね、開発に向けて準備を進めていきます。



# アルバニアトピック



## NFFISの開発:

システムの開発と運用化に向けて、大きな進展がありました。具体的には、NFFISの方法論開発、ハードウェアおよびシステムの仕様策定、データ収集フレームワークの構築、そして開発者候補者の面接といった成果が挙げられます。特に、方法論開発においては、アルバニアの関係者に対し、技術的な要件、各関係者の役割、関連する法規制、さらに既存の災害対策プラットフォームとのシステム統合の可能性について概説しました。

### プロジェクト会議とイベント:

- ❖ NFFIS方法論プレゼンテーション: 3月17日開催
- ❖ 第2回TCG会議: 6月2日開催
- ❖ 第2回JCC会議: 6月17日開催



プロジェクトマネージャーによる進捗報告  
(第2回JCC会議)

集合写真  
(第2回JCCミーティング)

# ボスニア・ヘルツェゴビナ トピック



## NFFISの開発:

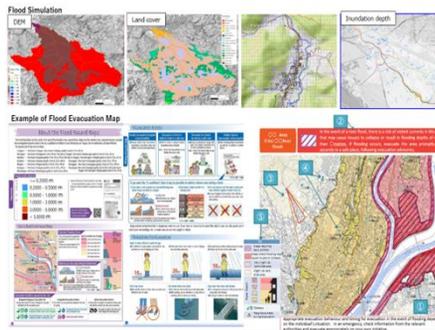
NFFIS開発に向けたデータ収集は着実に進んでいます。森林管理は、スルプスカ共和国 (RS) では集約的に、ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦 (FBiH) では分散的に行われているという組織的な権限の違いを踏まえ、2025年5月28日に連邦および州の関係者との間で森林データに関する協議が開催されました。その結果、州からの支援も得られ、データ共有が開始されています。RS森林会社との調整は現在も進行中で、データセットの提供は間もなく開始される見込みです。

### プロジェクト会議とイベント:

- ❖ 森林データ協議: 5月28日開催
- ❖ 第2回TCG会議: 6月12日開催
- ❖ 第1回JCC会議: 6月19日開催



集合写真 (第1回JCCミーティング)



避難マップ事例

## NbS for DRR 活動進捗:

本プロジェクトでは、ティラナの重要な水源であるボビラ貯水池の集水域において、土壌侵食抑制のためのNbS for DRRの実証に注力し、活動を進めています。構造物 (ガリープラグ、編柵工など) と植栽・播種による植生再生を組み合わせた実証試験に向けて、2つのパイロットサイトを選定しました。5月に日本人専門家チームが現地を訪問した際には、土壌と植生の調査を実施し、現場の状況に最も適した土壌侵食対策の手法を特定しました。

**TCG (Technical Coordination Group)**: 活動内容の協議・決定、進捗確認等を行い、現場活動の具体的なアプローチを決定する場  
**JCC (Joint Coordination Committee)**: プロジェクト全体の進捗確認や重要な意思決定、方針決定を行う場



プレゼン発表  
(第2回TCGミーティング)



日本人専門家による  
土壌調査  
(パイロットサイト)

## Eco-DRR 活動進捗:

RRIモデルを用いた、ジェリエズニツァ川流域の洪水シミュレーションモデルを開発中です。このシミュレーション結果は、イリジャ (FBiH) およびイストチナ・イリジャ (RS) 両自治体における洪水浸水・避難マップの作成に役立ちます。これにより、住民が仙台防災枠組に沿って洪水リスクを正確に理解し、効果的な対応を取れるようになることが期待されます。



森林データ協議  
(5月28日)



現地調査写真

**NbS (Nature based Solution)**: 自然を基盤とした解決策

**DRR (Disaster Risk Reduction)**: 新たな災害リスクを防いだり、既存の災害リスクを軽減すること

**Eco-DRR (Ecosystem based Disaster Risk Reduction)**: 災害リスクを軽減するための生態系の持続可能な管理、保全、回復

**FBiH (Federation of Bosnia and Herzegovina)**: ボスニアヘルツェゴビナ連邦

**RS (Republika Srpska)**: スルプスカ共和国

**RRI model (Rain fall-Runoff-Inundation)**: 降雨(Rainfall)-流出(Runoff)-氾濫(Inundation)モデル

Facebook  
フォロー  
ください!

